

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 17 日現在

機関番号：13801

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520235

研究課題名（和文）ダンテの後継者パーマーの作品を通して分析する1970年代以降のアメリカ

研究課題名（英文）An American Successor to Dante: Michael Palmer and His Depiction of the States from the 1970's

研究代表者

山内 功一郎 (YAMAUCHI KOICHIRO)

静岡大学・人文社会科学部・准教授

研究者番号：20313918

研究成果の概要（和文）：本研究は、アメリカの詩人マイケル・パーマー（1943年生）が、ダンテの「多義性」（複数の意味を単一の単語や表現で共存させること）を適用し、「抵抗詩」の可能性を追求したことを証明した。パーマーにおける「抵抗」は、まずなによりも、戦争をめぐる独善的な観念を退けることを意味する。その目的は対位法的な視座に基づく分析であり、単純な二項対立の図式（善と悪、権力と大衆等）に嫌疑を挟むことにある。このようなパーマーの実践におけるパラドキシカルな性格は、戦争を推進するスローガンの奥底に潜む複雑な虚偽のメカニズムを暴き出す上で大いに効果を発揮する。以上の点を本研究は解き明かした。

研究成果の概要（英文）：This research demonstrated that the American poet Michael Palmer (b. 1943) employed Dante's method of "polysemy" (i.e., packing multiple meanings in words or expressions), so that he could pursue the possibility of "resistant poetry." The term "resistance" for Palmer does not mean a solipsistic view of a given war; it rather involves a sort of contrapuntal analysis, which clearly runs counter to the simplistic notions of binaries, such as good and evil, and the powerful and the masses. This paradoxical nature in Palmer's practice operates as he tries to investigate the hidden lies and mendacities of the political slogans promoting war.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,800,000	540,000	2,340,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、英米・英語圏文学

キーワード：米文学、ダンテ、国際情報交換

1. 研究開始当初の背景

(1) 現在アメリカを代表する詩人の一人に数えられているマイケル・パーマーの諸作品については、近年意欲的な分析が加えられている。しかし日本はもとよりアメリカ本国の研

究者たちも、イタリア系アメリカ人の詩人であるパーマーに、叙事詩『神曲』の作者ダンテが与えた影響については、まだ本格的な研究を進めることができていない。この研究上

の遅延は、単にパーマー研究の遅延であるのみならず、アメリカ詩研究の深刻な遅延となってしまうている。こういった状況を改善するために、本研究計画は構想された。

2. 研究の目的

(1) イタリアの詩人ダンテから、アメリカの詩人マイケル・パーマーがどのような影響を受けたのかという点を明らかにすること。

(2) パーマーがダンテの後継者として 1970年代以降のアメリカをどう捉えたのかという点を示すこと。

(3) パーマーが捉えた「ヴェトナム戦争」と「9・11 同時多発テロ」の本質を解明し、21世紀の文学とアメリカ社会の関係性を捕捉すること。

3. 研究の方法

(1) 平成 22 年度には、アメリカにおける現地調査を実施し、マイケル・パーマーを始めとする研究者・詩人たちへのインタビューを行った。特にパーマーに対してはロング・インタビューを行い、「ヴェトナム戦争」と「9・11」同時多発テロの関係をめぐる詳細な情報を入手した。そしてそのインタビュー記録を整理してから、次年度のヨーロッパにおける現地調査の準備を行った。

(2) 平成 23 年度には、ヨーロッパにおける現地調査を実施し、ダンテに関する資料を収集した。ヴェネツィア大学のマモリ・ゾルジ教授から情報を得た他、ダンテとゆかりの深いエズラ・パウンドが活躍したヴェネツィアでもリサーチを行い、イタリア側から見たアメリカに関する資料を入手した。そして帰国後に、探索した資料の整理を行ってから、研究発表用の原稿を作成した。

(3) 平成 24 年度には、引き続きヨーロッパにおける現地調査と資料収集を進めた。とりわけパーマーの作品をめぐる専門的な見識を持つ芸術家や研究者との交流を行い、本研究課題に関連する情報の収集と整理に努めた。また国外のみならず国内の学会にも積極的に参加し、パーマーとダンテをめぐる知見を深めるよう努めた。その成果の一端を第 51 回日本アメリカ文学会全国大会で発表し、その成果を活かして英語論文の執筆を行った。

4. 研究成果

(1) もっとも総括的な研究成果は、英語論文“Dismantling the Conceptual Notion of the Book: Michael Palmer’s Paradoxical Relationship with Dante”にまとめられた(査読有)。パーマーとダンテをめぐるこの

論文は、2013 年 6 月 1 日に、日本アメリカ文学会東京支部会報『アメリカ文学』第 74 号に掲載される予定である。平易な英文で書かれた当該論文は、国内はもとより海外のパーマー研究者やダンテ研究者の目にもとまるはずである。

(2) 共訳の監修者として、パーマーと関連の深い詩人リン・ヘジニアン代表作『マイ・ライフ』の抄訳を、2013 年 3 月に発表した。本邦初となる同訳書の出版は大きな反響を呼び、同年 3 月 21 日付の毎日新聞夕刊の書評欄でも大きく取り上げられた。

(3) 2012 年 3 月に、日本エズラ・パウンド協会の研究誌 *Ezra Pound Review* に、論文「“生き生きとした道具”へと化す人間と事物—エズラ・パウンドを発展的に継承する“A”-9 前半のルーイ・ズコフスキー」を発表した(査読有)。

(4) 2011 年 3 月に、シルフェ英語英米文学会の研究誌『シルフェ』第 50 巻に、論文「『神秘的なもの』をめぐる言語ゲーム」を発表した(査読有)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

- ① 山内功一郎、“Dismantling the Conceptual Notion of the Book: Michael Palmer’s Paradoxical Relationship with Dante”『アメリカ文学』、査読有、Vol. 74、2013、1-11。
- ② 山内功一郎、「“生き生きとした道具”へと化す人間と事物—エズラ・パウンドを発展的に継承する“A”-9 前半のルーイ・ズコフスキー」、*Ezra Pound Review* Vol. 14、2011、1-19、査読有。
- ③ 山内功一郎、「『神秘的なもの』をめぐる言語ゲーム」、『シルフェ』、Vol. 50、151-67、2010、査読有。

[学会発表] (計 3 件)

- ① 山内功一郎、「“だれでもないもの”の声が生じるとき—Michael Palmer と Irving Petlin のコラボレーション」、日本アメリカ文学会第 51 回全国大会、2012 年 10 月 13 日、名古屋大学。
- ② 山内功一郎、「反動的なノスタルジアへの抵抗—Michael Palmer によるパラドックスの探究」、日本アメリカ文学会東京支部例会、2011 年 9 月 24 日、慶應義塾大学。
- ③ 山内功一郎、「Louis Zukofsky と

“Exaction”—“A-9”前半について」、日本
英文学会第 82 回全国大会、2010 年 5 月
30 日、神戸大学。

〔図書〕(計 2 件)

- ① リン・ヘジニアン著、山内功一郎他訳、
メルテミア・プレス、『マイ・ライフより
——リン・ヘジニアン詩集』、2013、65.
- ② フィリップ・ラマンティア著、山内功一
郎訳、メルテミア・プレス、『シヤスター
——フィリップ・ラマンティア詩集』、2012、
101.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山内 功一郎 (YAMAUCHI KOICHIRO)
静岡大学・人文社会科学部・准教授
研究者番号：20313918

(2) 研究分担者

無し。 ()

研究者番号：

(3) 連携研究者

無し。 ()

研究者番号：